

振動障害研究センターにおける研究成果報告

平成 17 年 10 月 27 日

振動障害研究センター長 那須吉郎

1. 病院別の対象者数							
	合計	岩見沢	美唄	山陰	愛媛	九州	熊本
対照者	87	7	22	14	19	25	0
振動障害患者	112	24	13	73	0	0	2
合計	199	31	35	87	19	25	2

2. 対象者の特性		
	年齢	振動工具使用年数
対照者	43.4±12.0	
振動障害患者	72.0±8.8	17.0±11.2

3 振動障害患者の年代別工具使用年数				
		人数	年齢	使用年数
①現在もあり		70	71.0±7.9	18.4±11.9
②過去レイノーあり		31	75.0±6.6	13.6±10.0
③レイノーなし		11	64.0±15.2	18.4±9.7

表 対象者の測定時の室温のパターン									
	人数	室温	人数	室温	人数	室温	人数	室温	人数
対照者									
2回測定	70	20+22°C	10	21+23°C	25	22+24°C	18	その他	17
1回測定	17	24°C	14	その他	3				
振動障害患者									
3回測定	35	21+22+23°C	29	22+23+24°C	5	その他	1		
2回測定	71	20+22°C	28	20+24°C	30	20+24°C	7	その他	6
1回測定	5	24°C	5						
20°C(20.0-20.9°C) 21°C(21.0-21.9°C) 22°C(22.0-22.9°C) 23°C(23.0-23.9°C) 24°C(24.0-24.9°C)									

表 測定時の室温別対象者数					
	室温	人数	室温	人数	人数
対照者	21±1°C	69	23±1°C		80
振動障害患者	21±1°C	101	23±1°C		112
21±1°C(20.0-22.0°C) 23±1°C(22.1-24.0°C)					

対照者(振動工具非使用者)の 年代別FSBP%値

室温 $21 \pm 1^{\circ}\text{C}$ (20.0~22.0 $^{\circ}\text{C}$)、 $23 \pm 1^{\circ}\text{C}$ (22.1~24.0 $^{\circ}\text{C}$)

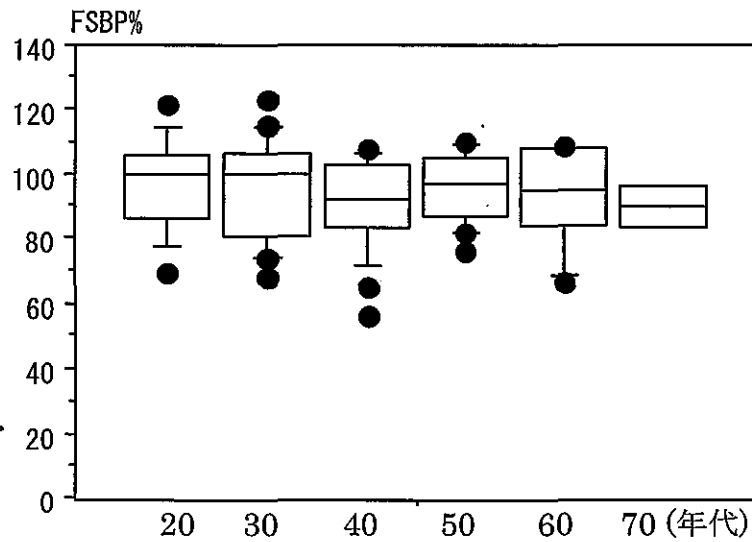


図 対照者の年代別 FSBP% (室温 21 $^{\circ}\text{C}$)

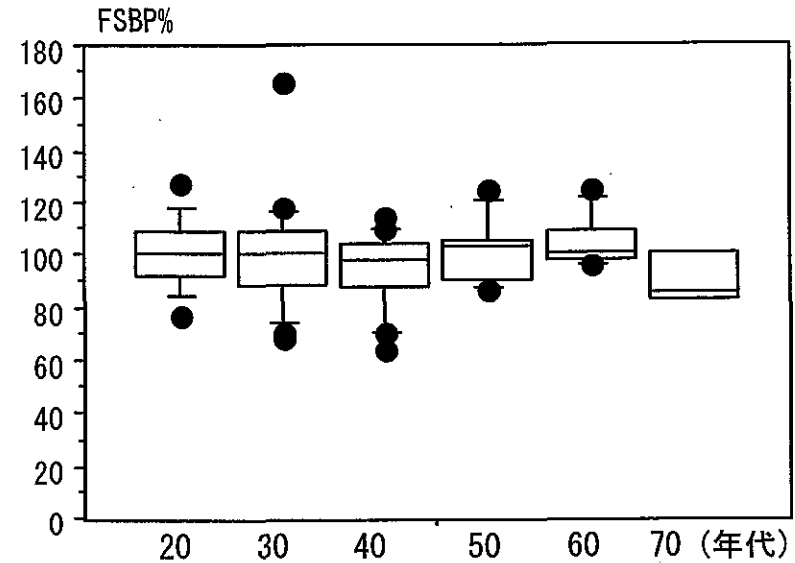


図 対照者の年代別 FSBP% (室温 23 $^{\circ}\text{C}$)

対照者と振動工具使用者のレイノー現象別FSBP% {室温 $21 \pm 1^\circ\text{C}$ ($20.0 \sim 22.0^\circ\text{C}$)、 $23 \pm 1^\circ\text{C}$ ($22.1 \sim 24.0^\circ\text{C}$) }

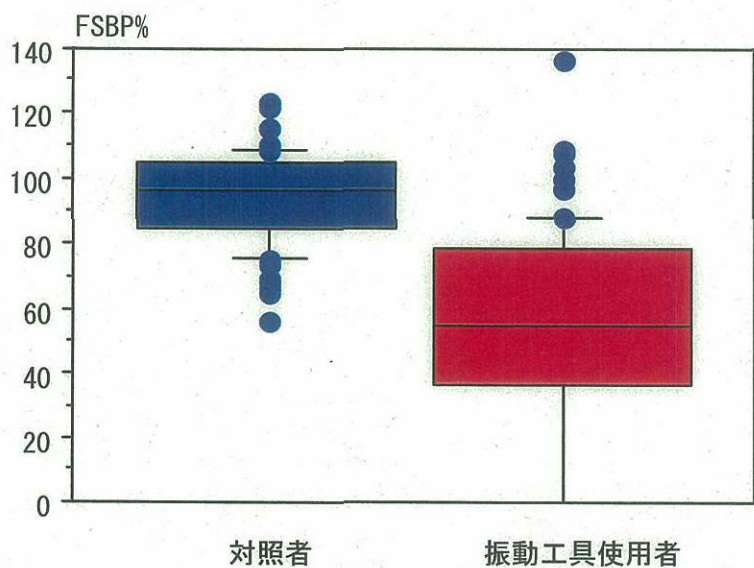


図 対照者と振動工具使用者のFSBP% (室温 21°C)

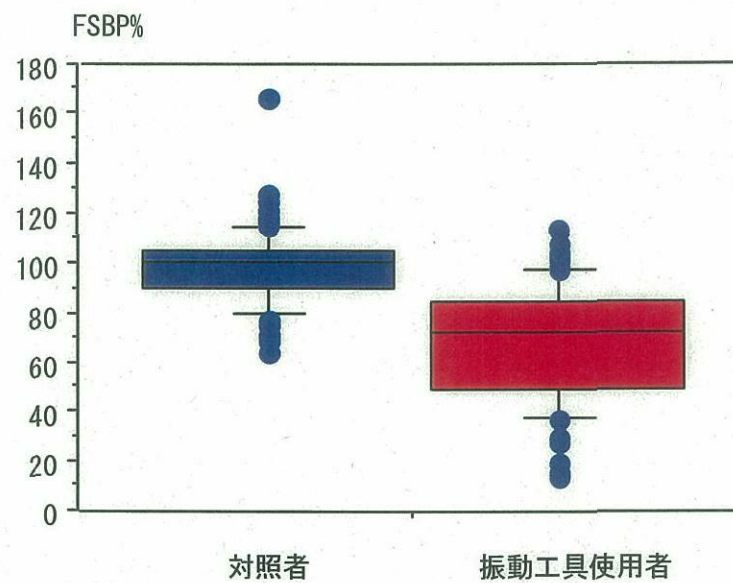
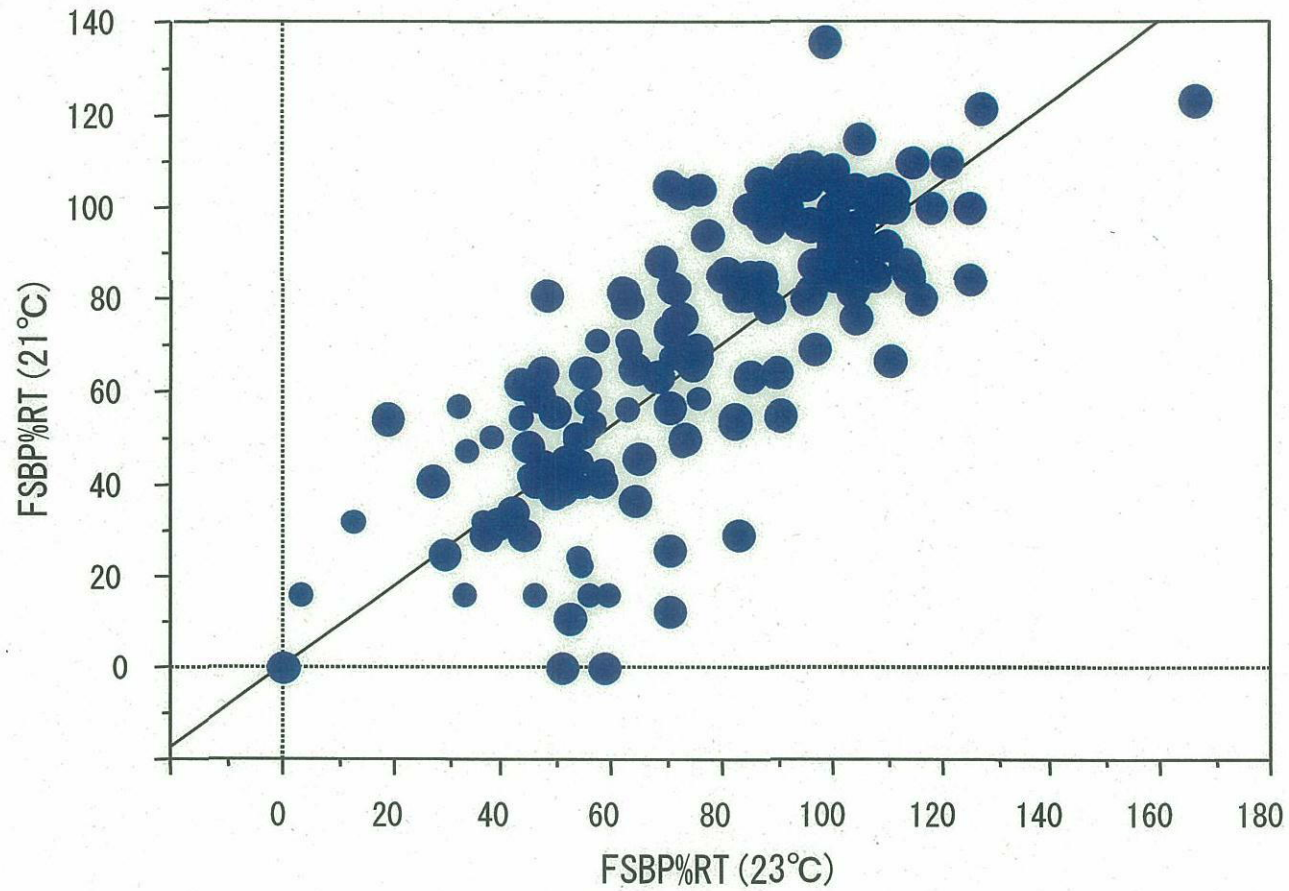


図 対照者と振動工具使用者のFSBP% (室温 23°C)

室温 $21 \pm 1^\circ\text{C}$ ($20.0 \sim 22.0^\circ\text{C}$)と $23 \pm 1^\circ\text{C}$ ($22.1 \sim 24.0^\circ\text{C}$)でのFSBP%の散布図



$$Y = 0.01 + 0.88 X ; R^2 = .572 \quad Y = 4.33 + 0.82 X ; R^2 = .504$$